

高
2025

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で16ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 始まるの合図で、解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自分で獲物を撃ちとめたときも、私の心は^①眼によつてつよく打たれる。自分で殺しておいて心が打たれるものもあつたものではないが、でもたしかに、眼をみたときに私は自分が殺した動物から、その自分の殺し行為の正当性をつよく問われている気持ちになり、心が揺さぶられるのである。

狩りで動物の命をうばい、死んだ眼をみたときにわきおこる感情が何なのかと考えると、それは負い目以外の何物でもない。

②、殺しの負い目は慣れることにより次第にうすらいでゆくものでもある。

私が北極の旅ではじめて狩猟した動物は、二〇一一年の長期にわたる極北カナダの徒歩旅行中における麝香牛^{ジャコウウシ}だ。この麝香牛は母牛だったようで、死んだ後も仔牛が傍に寄りそいメーメーと山羊のような鳴き声をあげていた。その鳴き声は母を失った子の切実な感情にあふれていて、声や動きの一つひとつが私をひどく動揺させた。さらに解体をおえてその場を立ち去ろうとすると、仔牛はまるで私たちの殺しを糾弾するように、非難めいた絶叫をあげて突進してきた。その行動に私はつよく狼狽^{うろた}え、混乱し、罪の意識を刺激された。

だがそれほどの大きな^③負い目を感じたのは、このときだけである。

それからも私は幾度となく兎や海豹^{あざろし}、ときには狼といった動物を狙撃し、それを旅の食料資源にしたが、回数をかさねるほど殺しにともなう罪悪感^④は希釈され、しだいに殺しに慣れていった。しかし、それでもやはり嫌な感じは完全に払拭^{ふっしょく}されることはない。引き金をひく瞬間までは、絶対に獲つてやる決意というか、口から生睡^{はん}がにじむ緊張感に支配されるが、狩りに成功して緊張が解除されてホッと安堵した後に、冷静に自分の行為を反省^{すう}する瞬間がやってきて、殺しの負い目がわきあがる。

たとえば前章で触れた麝香牛狩りのときも、そのような負い目が生じた。

あのときは深雪にあえぎ、食料が不足する不安があったなかで仕留めた麝香牛であつたし、そもそもこの旅は狩りを前提としていたものだったわけだから、実際に狙った個体に弾が命中し倒れたときは、神の恩寵おんちゆうを逃さなかつた安堵と、旅がつながった喜びで、私は雄たけびをあげた。でも矛盾しているようだが、狩りに成功したときに胸につきあげてくる感情は肯定的なものだけでなく、殺しの負い目もやはりある。そしてこの負い目は動物の眼をみて、気持ちが厳粛になったときにならずわきあがるものである。

私のことを見つめる眼、それは^⑥殺した獲物の眼だけではない。麝香牛の場合は群れで移動していることが多く、大抵の場合、銃声とていしやうが轟くと群れの他の個体はいっせいに雪煙をまきあげ、逃走を開始して、私とのあいだに距離をとる。はるか遠くに姿を消すこともあれば、百メートルほどで遁走とんそうをやめ、そこでたたずんでいる場合もある。このときは後者のケースだった。逃げた麝香牛たちは百メートルほどで走るのをやめ、そしてこちらをふりむき、一斉に私のほうを凝視した。私は、麝香牛たちが見つめる状況のなかで撃った個体の解体をつづけたのだった。そうなるとう然のことながら私の意識には、この麝香牛たちは仲間の死体を切り刻む自分をどのように見ているのだろうか、との疑問がうかぶわけだ。

殺してしまったという負い目があつたので、解体をおえてテントにはいったあと、私はそのことについて考えた。

なぜこのような負い目が生じるのか。狩猟するかぎり、この負い目は永久に消えないのか。べつに負い目を払拭したいわけではないが、ただ、いつまでも心の襷ひたにこびりつく、この落ち着かない感情の正体が気になる。シオラパークの猟師は毎日のように海豹や海象せいそうを殺生しているが、狩りや解体の現場を見るかぎり、彼らが同じような負い目を感じているふうには見えない。昔はどうか知らないが、今は儀式などものこっていない。一角や白

熊などの大物の狩りに成功したときなどは記念撮影などすることもあり、その意味ではわりと無邪気だ。しかし自分のケースで考えても、慣れによって希釈され、薄められたこの負い目は、かならずしも表面化するものではなく、蠟燭ろうそくの炎のように心の内部でほんのりと灯るだけである。だとすれば、^⑦彼らも意識の内部で日々、この見えない負い目を引き上げているかもしれない。

そんなことをじくじくと考えているうちに、私は、ふとあることに気づいた。

この負い目の落ち着かなさの淵源えんげんは何なのか。という、それはもしかしたら^⑧動物の側からの私にたいする生への問いかけなのではないだろうか。

動物を殺生する狩りという行為は^⑨端的に暴力そのものである。しかし、^⑩殺戮者である私の側にもこの暴力を正当化する理屈がないわけではない。

たしかに私は麝香牛を撃ち殺した。でもこの殺しは不当な殺しではない。

^⑪

私は旅を続行するために食料が必要であり、その意味でこの狩りは生きるのに必要な最低限の資源を手に入れるための殺しだからである。密猟して金儲けしようとか、大きな枝角えんづのを手に入れてレコードブックに記載して他人に自慢しようとか、そういうあさましい理由でやっているわけではなく、純然たる生命の保持活動である。その証拠に私は殺したこの麝香牛の肉を可能なかぎり採集して、無駄なく消費しようとしていている。

旅のため、という理由がそもそも不届き千万なのだ、と反論する人もいるかもしれないが、それは^⑫的外れである。なぜなら旅に出ようと出まいと、日本の日常やシオラパークでの生活でも、私は豚なり牛なり海豹なり、何らかの動物の肉を食べるからだ。私が肉を食べる以上、そのために殺されている動物がいるわけで、そう考えると私の食のために殺される動物の総量はかわらない。つまり旅に出ようと出まいと、私の食のために殺される動物がかならずどこかにいる。となると、スーパーで買った肉を食べること、自分で狩猟した肉を食べること

とのちがいは、結局のところ殺しの作業を誰が引きうけるのかという点に収斂^{しゅうれん}する。

⑬ 人は他の生き物を殺生しないと生きていけず、それは揺るがない。狩りが残酷だというのは、殺生という嫌悪すべき作業をむき出しにされたことからくる単なる感情論にすぎない。動物の肉を食べておきながら、そのために必要な殺しの作業を他者の手にまかせることは、食の裏に不可避的にひそむ殺生という事実から目を背けているぶん、むしろ欺瞞^{ぎまん}である。筋論でいえば、肉を食すという行為は本来、殺しを引きうけ、その動物が生きていたことを想起したうえでなければやってはならないことなのである。そうでなければ食べられる動物にたいして失礼ではないだろうか。

と、簡単にまとめれば、これが私にかぎらず狩猟者が動物を殺すことを正当化するオーソドックスな論理だろう。私もこれは基本的に筋がとおっていると思うので、世間向けにはこの理屈で自分の狩猟行為を正当化することになっている。

しかし、現実の狩猟の現場では、このような平板な机上の論理はいとも簡単に破綻^{はたん}してしまうのである。なぜ破綻するのかというと、それは狩りをするとかならず負い目をかかえるからである。そしてその負い目をもたらずのが、その私の殺しを見つめる死んだ動物の眼なのである。

動物を狩猟し、その死んだ眼とむきあったとき、あるいは私の殺しを見ている群れの他の個体の視線にさらされたとき、私は負い目をかかえる。もし今書いた論理が完璧で、矛盾のないものであれば、こんな負い目を感じる道理はないはずである。なのに現実には負い目は生じる。ということはこの論理は、狩りの現場においては論理として成り立っていないということだ。

少なくとも今私が書いた狩りの正当化論理は、眼が突きつける負い目により無効化される。では負い目が意味するものは何なのか。

ちよつと考えればわかることだが、生きるために必要だという、この^⑭狩りの正当化論は、じつは自分と同じ人間社会にむけて組み立てられた理屈にすぎない。人が生きるために動物を殺生するのは仕方がない、というのはあきらかに人間中心主義の産物であり、その意味では都市の論理であつて野生の論理ではない。人間の側の一方的な言い分なのである。だから目の前で殺された動物にたいしては何ら説得力を有していない。はねかえされる。一方、狩りによって生じる負い目は、人間にむけたこの正当化論理のとどかない、殺された動物の側からひびく声によつてもたらされるものなのである。

つまるところ、この負い目は次のような負い目だ。

生きるために必要だという理由で自分はこの動物を殺した。だが、この動物を殺してまで自分は生きるに値する存在なのだろうか？

そしてさらに考究すれば、負い目が生じるということは、自分の視点が動物の視点に転換しているということでもある。

たしかに客観的には私の眼は死んだ動物の眼を見ている。このことにまちがいはない。しかし、負い目が意味するこのような疑問が、動物の視点からなげかけられたものである以上、同時に私は、死んだ動物の眼でおのれの行為を客体視してながめている、という位相にもたっているはずである。つまり負い目を感じているとき、私は狩猟者の立場だけでなく、死んだ動物の立場にたち、おのれの行為を外から^⑮しているのである。

負い目をもたらすのは、獲物としてねらわれた動物たちの目である。動物の目をのぞきこむことで、私の視点は動物の視点に転換され、逆に動物の目で自分の行為を凝視する。視点が転換することにより、そこからおのずと生じてくる動物の側からのおのれの行為の告発。虚ろになった眼まなこから消えてしまった魂が発する、お前にはそれをやる権利があるのか、との問いかけ。殺しの負い目が意味するのは、これだ。死んだ動物の眼は、私自身の

眼となり、私の内側をのぞきこみ、私の生の正当性そのものをぐらぐらゆさぶるのだ。

肉を食すという行為の傍らには、本来、このような、自分が生きているのは正当なのか、殺した動物に見合った存在であれているのか、という実存の根底にかかわる緊張感が横たわっている。

しかしそれにしても、なぜ動物の視点から自分の汚れた手を見つめなければならないのか？

（角幡唯介『狩りの思考法』より）

問一 空欄②、⑪、⑬に入る接続詞として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア なぜなら イ だから ウ つまり エ そして オ どちらにせよ カ だが
キ たとえば ク もし ケ さらに

問二 傍線部①とは誰の眼か、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 動物たちを殺した私の眼 イ 殺された獲物の仲間の眼 ウ 私に撃たれた獲物の眼
エ 私の行為を見ていた同行者の眼

問三 傍線部③と同じ意味の単語を文中から漢字三字で抜き出しなさい。

問四 傍線部④、⑨、⑫の言葉の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ④ ア 忘れられる イ 薄められる ウ 集められる エ 許される
⑨ ア 簡潔に言えば イ わかりにくい言い方だが ウ さらに加えれば エ なんとと言っても
⑫ ア 当たり前 イ 心外 ウ 無関係 エ 見当違い

問五 傍線部⑤は筆者のどんな気持ちを表現しているか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア プライドが守られた自分の幸運に大変満足した。

イ 自分の命を維持することができた快拳に小躍りした。

ウ 憎い麝香牛を一撃で仕留められた偶然に感謝した。

エ 自分の研究材料が得られたことで研究続行を確信した。

問六 傍線部⑥の具体的な例としてどんな眼が考えられるか、その答えに当たる次の文の空欄に入る単語をそれ

ぞれ指定の字数で文中から抜き出しなさい。

私が（A 三文字）獲物の（B 二文字）の眼

問七 傍線部⑦は誰のことを指しているか、文中から十字以内で抜き出しなさい。

問八 傍線部⑧とあるが、「動物の側からの私にたいする生への問いかけ」の言葉とはどのようなものか、本文中から十六字で抜き出し、その最初と最後の三字ずつをそれぞれ書きなさい。（句読点は含まない。）

問九 傍線部⑩とあるが、「私」にとって「狩り」とはどのような行為か、本文中から十一字で抜き出しなさい。

問十 傍線部⑭と同じ意味を表現する言葉を同じ段落から十二字で抜き出しなさい。

問十一 空欄⑮に入る単語として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 俯瞰 イ 想像 ウ 思案 エ 敵視

問十二 本文の内容と合致しないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生きるために動物を殺すことは避けられないことであるが、人間はなるべく殺生の現場から目を背けた
いと思うものである。

イ 自分の生命を維持するために猫をしている現地の猫師たちですら心の奥底では見えない負い目を持って
いるに違いない。

ウ 旅先で猫を行うのは必要最低限に限られるのだから私たちの殺生には意味があり、そこに反省の気持ち
を持つ必要など全くない。

エ 動物の命を食しているのだから、常に私たちにはその殺生が正当であるのかが問われていると言っても
過言ではない。

二 次の文章は『徒然草』第百三十五段です。和歌を得意とする知識人の資季大納言と、同じく和歌を得意と

する若き具氏宰相中將の宮中でのやりとりが描かれています。これを読み、後の問いに答えなさい。なお、

振り仮名は現代仮名遣いとし、表記も読みやすいものに一部改めています。

*¹資季大納言入道とかや聞えける人、具氏宰相中將にあひて、*²「わぬしの問はれんほどのこと、何事
なりとも答へ申さざらんや」と言はれければ、具氏、「いかが侍らん」と申されけるを、②「さらば、*⁴あらがひ
給へ」と言はれて、③「はかばかしき事は、片端も学び知り侍らねば、尋ね申すまでもなし。何となき*⁵そぞろご
との中に、おぼつかなき事をこそ問ひ奉らめ」と申されけり。「まして、ここもとの浅き事は、何事なりともあき
らめ申さん」と言はれければ、*⁶近習の人々、女房なども、興あるあらがひなり。同じくは、④御前にて争はる
べし。負けたらん人は、*⁷供御をまうけらるべしと定めて、御前にて召し合はせられたりけるに、具氏、「幼くよ
り聞き習ひ侍れど、その心知らぬこと侍り。『むまのきつりやう、きつにのをかなかくばれいりくれんとう』と申
す事は、如何なる心にか侍らん。承らん」と申されけるに、大納言入道、はたと詰りて、⑤「これはそぞろことな
れば、言ふにも足らず」と言はれけるを、「本より深き道は知り侍らず。そぞろごとを尋ね奉らんと⑥定め申しつ」
と申されければ、大納言入道、負になりて、⑦*⁸所課*⁹いかめしくせられたりけるとぞ。

【語注】

- * 1 資季すけすえのだい大納言なごんにゅうどう入道・・藤原資季。天皇の側近のひとり。歌人として多くの勅撰和歌集に入集した。
- * 2 具氏ともじのさいしゅう宰相中將・・源具氏。藤原資季より二十五歳ほど若いとされる。歌人として活躍した。
- * 3 わぬし・・そなた（対等またはそれ以下の者を親しんで呼ぶ言い方）
- * 4 あらがひ・・賭けをしながら言い争うこと
- * 5 そぞろごと・・とりとめのないこと
- * 6 近習・・家来
- * 7 供御・・ごちそう
- * 8 所課・・ごちそう
- * 9 いかめしく・・盛大に

問一 傍線部①「何事なりとも答へ申さざらんや」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 何事であつても答え申し上げられないにきまつている
- イ 何事であつても答え申し上げられないことがあるうか
- ウ 何事であつても答え申し上げないことはできるはずではないか
- エ 何事であつても答え申し上げられないことはないつもりだ

問二 傍線部②「さらば、あらがひ給へ」の主語はだれか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 資季 イ 具氏 ウ 近習の人々 エ 女房

問三 傍線部③「はかばかしき事」の本文中の語句の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア すぐれている事

イ どうでもよい事

ウ はつきりしない事

エ まじめな事

問四 傍線部④「御前」は何を示しているか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 宴会中 イ 日中 ウ 天皇の前 エ 昼食前 オ 家来の前

問五 傍線部⑤「これ」とは何を指しているか。本文中から抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点と記号は含まない。

問六 傍線部⑥「定め申しつ」とあるが、指している内容を本文中から抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点と記号は含まない。

問七 傍線部⑦「所課いかめしくせられたり」とあるが、誰が誰になした行為か。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 資季が近習と女房に

イ 具氏が近習と女房に

ウ 資季が具氏に

エ 具氏が資季に

問八 本文中で会話文には「 」がついているが、もう一か所「 」をつけることができる。その言葉
葉を本文中から探し、初めと終わりの三字を答えなさい。ただし句読点と記号は含まない。

問九 『徒然草』と同じジャンルの作品はどれか、記号で答えなさい。

ア 十訓抄

イ 古今著聞集

ウ 宇治拾遺物語

エ 更級日記

オ 枕草子

問十 この段を授業で学んだ生徒たちが感想を述べあいました。次の発言の中で明らかに読解が間違っている感想を選び、解答欄にあらうよう記号で答えなさい。

生徒A 資季さんは、具氏さんに対して、ずいぶん自信がある口ぶりで話を進めていたよね。

具氏さんは、自信がある資季さんに対して、ほどよくあしらって受け流しているように思えたな。

生徒B 性格が対照的な二人の会話だからこそ、徒然草を書いた兼好は面白味を感じたのだろうな。

会話のやりとりが生き生きしていて、大切な教える話というよりも人間味を描いているように感じたよ。

生徒C どちらが正しいか決着をつけようとして、周りの人たちを大勢巻き込んでいくのが後に引けない展開を作っているね。

本当はどちらも面倒なことになる前に話を終わらせたかったのに大事になり困っていたね。

生徒D 小さな頃から知っていても、意味がわからない言い回しは現代でもあるけれど、耳に残るよね。

資季さんは、得意とする和歌と関係のないことを聞かれ困っただろうな。

生徒E 疑問があるか聞かれたときに、すぐに子供時代からの記憶から思い出せるのは素晴らしいことだね。この時代は和歌のやりとりにしる、その場の機転の利いた受け答えが素晴らしいとされていたのがわかるよ。

三 次の問いに答えなさい。

問一

① 次の□に入る語の中で、ひとつだけ体の部位ではない語が入るものはどれか、記号で答え、当てはまる語を漢字で答えなさい。

- ア 人□に膾炙する
イ □角をあらわす
ウ 上手の□から水が漏れる
エ 李□に冠を正さず
オ 間□を容れず

② 次の□にひとつだけ違う漢字が入るものはどれか、記号で答え、その語に当てはまる語を漢字で答えなさい。

- ア 問答□用 イ 天衣□縫 ウ 雲散□消 エ 孤立□援 オ □我夢中

問二 次の文の傍線部の活用形を選び、記号で答えなさい。

昨夜は①暑かったので、なかなか②眠ることができなかった。

- ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形 オ 仮定形 カ 命令形

問三 次の和歌にある修辞を記号で答えなさい。

花の色はうつりにけりないたづらにわが身よにふるながめせしまに

- ア 枕詞 イ 序詞 ウ 掛詞 エ 縁詞

問四 次の各文の付属語の数を数字で答えなさい。

- ① 東京の、アパートの窓から見る富士は、くるしい。(太宰治『富岳百景』より)
- ② 二人同時に言い、ひしと抱き合い、それから嬉し泣きにおいおい声を放って泣いた。

(太宰治『走れメロス』より)

問五 次の各文を読み、敬語として間違った表現が含まれているものを選び、記号で答えなさい。

〈高校体育祭を見学される方へ受付にてアナウンスする様子です。〉

- ア こちらが、体育祭見学の受付場所です。お名前をいただけますか。
- イ 本日はたくさんの方の地域のみなさまにご参加いただき、ありがとうございます。
- ウ 競技での頑張りをぜひご覧ください。
- エ 観覧中にお困りのことがございましたら、ぜひおっしゃってください。
- オ また一日の最後にはアンケートにご協力ください。

四

傍線部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

- ① 困難な場面になっても健気に振舞っていた。
- ② 高校時代は子供から大人への過渡期である。
- ③ 恭しい態度で優勝旗を受け取りに前に進んだ。
- ④ 英語リスニングを毎日続ける事を奨励する。
- ⑤ 都市部への人口の偏りは今後の課題である。

五

傍線部のカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

- ① この件に関し、エイイ努力します。
- ② 古代イセキの発見に胸が躍る。
- ③ 今後は、何事も挑戦し、シヤを広げていきたい。
- ④ 生成AIの発達による社会変化がスイソクされる。
- ⑤ 日本の文化を紹介し国際シンゼンを担うことが目標だ。

